令和５年度　第 29 期入学式

式辞

仁摩田台に春風が心地よい今日の佳き日に、８８名の希望に満ちた新入生を迎え、令和５年度島根県立邇摩高等学校入学式が挙行できますことを、ここに衷心より感謝申しあげます。〔中略〕

さて、本校は、明治三十六年の邇摩郡立石東農学校設立以来、今年で百二十周年を迎え、勤労・創造・仁心という三つの伝統精神を受け継いできました。平成七年度からは県内初の単独総合学科高校として、総合学科独自の特色あるキャリア教育を進めてきました。昨年度の学習指導要領の改訂に伴い、現在は農業とくらし、みらいビジネス、食とこども、ひとと福祉の４つの系列に再編成いたしました。生徒一人一人の適性・興味・関心に応じた分野の専門的な知識や技能が身につく教育を展開しています。

また、平成二十一年度には、本校敷地内に出雲養護学校邇摩分教室が開設され、授業や様々な行事において、両校の生徒が活発な交流を続けています。このことは、本校が推進しています「高等学校における特別支援教育」の柱となっています。

第２９期入学生のみなさん、入学おめでとうございます。厳しい状況を乗り越えての入学式、みなさんは、保護者の方々にたいし,これまでの慈しみ育んでいただいたことにこれまで以上に感謝の気持ちを強く持ち、本日を迎えたのではないでしょうか。当たりまえに思っていたことが、実は大変に貴重であることを実感し、人と人とのつながりの大切さを学んだ、新型コロナウイルス感染症に翻弄されたこの３年間,大きな制約や不安に打ち勝ち,晴れて合格を勝ち取った皆さんのひたむきな学びにたいし、心から敬意を表します。

これからの邇摩高校の三年間も、さらに充実したものとなるよう、私から「至誠」という言葉を皆さんに贈ります。「至誠」とは、「極めて誠実なこと」という意味ですが、掲げた意図を分かってもらうために、幕末の松下村塾の話をしたいと思います。吉田松陰は弟子に「将来、君は何を為すのか」と問い続け、明治維新の多くの人材を育成しました。あるとき、弟子の一人が、自分にはそれが見つからないと相談したことがあったそうです。そのときに、松陰が答えた言葉が、「至誠を貫きなさい」であったと言われます。夢や目標、挑戦したいことはすぐに見つかるものではありません。目の前のすべきことに、誠心誠意真心を込めて取り組むこと、そしてそれを続けること、つまり「至誠を貫くこと」で、自然と自らの目標が定まってくると言っています。高校時代は夢や目標を探し、つくり出す時間ではないでしょうか、そして高校時代に見つからなければ社会に出て、あるいは進学して見つければ良いと私は思います。大切なことは、他者との相対ではなく、自分軸で考えることです。「実力」

を付け自己を高めながら、自分とは何者なのか、社会へ出てどんな役割を担うことができるのかを問い続け,探し続けることだと思います。自ら主体的に勉強や部活動、学校行事に取り組み自分の打ち込めるものを見つけだし熱中して欲しいと思います。そしてさらなるスキルアップや中身の充実に向け積極的に活動したりアイデアを創造したりすること,困難にことにも果敢にチャレンジすることを大切にしてください。こういう経験の中で、自分が好きなことや将来の夢が見つかるものであると考えます。全ては、みなさんの「知りたい」「やりたい」から始まります。原動力は「分かったとき・出来るようになった時の喜び」です。分からないこと、疑問に感じたこと、乗り越えることが困難なことを大切にして、そしていつか解決してやるという意欲を持ち続けて欲しいと思います。そして、２９期生が、一人一人それぞれの疑問や好奇心を大切に考え、支えあうことができるチームであってほしいと願っています。自分と同じように、周りの人たちの気持ちを大事にし、お互いに尊重し合うこと、高めあうこと、磨き合うことを大切にしてください。それは必ず個々のスキルを大きく高めることにもつながり、それぞれの自己実現に近づくものであると思っています。

保護者の皆さまこの度は、お子様のご入学、誠におめでとうございます。本日より大切なお子様をお預かりし、学校としてできる限りの教育を行い、お子様の健全な成長を支援してまいります。

次に入学に当たり、学校として保護者の皆さまにお願いが二つございます。一つは、お子様が「高校生として必要かつ望ましい習慣」を身につけるよう、ご家庭でのご指導をお願いしたいということです。民法の改正により昨年四月一日より成人年齢は引き下げられておりますが、高校生の年代は、経験も判断力もまだまだ未熟です。また、高校生を取り巻く環境は決して安心できるものではありません。そういう状況で、良き習慣を身につけさせるには、ご家庭でのご指導が是非とも必要です。

もう一つは、本校の教育方針をご理解いただき、学校との連携をお願いしたいということです。生徒の実態と社会の状況を踏まえた本校独自の指導方針があります。このことをご理解いただいた上で、ご家庭と学校が車の両輪となりお子様の成長を支援していきたいと考えております。なにとぞ、宜しくお願い申しあげます。

結びに、入学生のみなさんが、本校の学びにより、大空高く羽ばたく力を育むことができるよう、教職員一同全力で邁進することをお誓い申しあげ、式辞と致します。

令和五年四月十一日

島根県立邇摩高等学校

校長　渡邊　勝義